

「日医の見解」—02月04日横倉会長定例記者会見より—

横倉義武日医会長が「ロコモ」のみならず「ロコトレ」、さらにはなんとSLOC「ロコモコーディネーター」にまで触れておられます。

過日「首相官邸健康・医療戦略参与会合」の場で会長がプレゼンされたスライド原稿は、佐藤敏信日総研主席研究員（前厚労省健康局長）監修によるSLOCの作品です。「ロコモスライド（医師会バージョン）」としてホームページに掲載しています。ご自由にダウンロードの上ご使用ください。http://sloc.or.jp/kaiin/?page_id=496

SLOC会員専用HP

<http://sloc.or.jp/kaiin/>

ユーザーID stop

パスワード slococomo

（後日原文のまま日医ニュース掲載予定とのことです。以下抜粋です。）

健康寿命を短くする要因としては、骨折・転倒と関節疾患といった運動器に起因するものが多くを占めており、運動器疾患対策、いわゆるロコモ対策には、生活習慣病と同様に重点を置かねばなりません。今までは、骨粗しょう症に重点が置かれていましたが、今後は運動器疾患対策として、転びにくい体を作ることが重要になってきます。

ロコモは既に行政施策に組み込まれていますが、まだ十分とは言えません。これからは健康日本21や市町村介護予防事業の中でロコトレの普及とロコモコーディネーターの育成を図らなくてはなりません。さらに、加齢によって筋肉が減少していくサルコペニア対策にも力を入れていく必要があります。

日本医師会は、かねてから政府に対し、「社会から支えられる側」であった高齢者が「社会を支える側」になれるよう、健康寿命の延伸をしていくことが重要であり、一次予防から三次予防までの保健事業

を、国民のライフサイクルに応じた生涯保健事業の体系化を提言し続けてまいりました。ようやく、厚生労働省も健康寿命延伸を推進するための組織改革がなされ、国民の健康づくり対策を所管する健康課が健康局の中に創設されることになりました。健康寿命の延伸のためには、ライフステージに応じた公的制度としての各種地域保健事業の拡充と、国民にとって魅力ある健診項目の設定等による受診率の向上が必要であり、健康局健康課にその役割を期待するとともに、日本医師会は、「健康寿命の延伸」に向けて引き続き政策提言をしていきます。